

玉垂

たまだれ
No.18

宮川沿の紅葉（平成18年11月26日）

<http://www.okunijinja.jp/>

奉祝

悠仁親王殿下御誕生

お健やかなご成長をお祈り申し上げます

師走を迎えて

平成十八年九月六日、秋篠宮家におかせられました。親王殿下のご誕生にられました。謹んで皇室の弥栄と親王殿下のお健やかなご成長を衷心よりお祈り申し上げます。

また、十一月八日には、神宮祭主池田厚子様が神宮少宮司高城治延様ご同行のもと、ご参拝になりました。当社にとりまして伊勢神宮の祭主様をご参拝されるのは初めてのことであり、責任役員を始め関係者にて肅々とご奉迎をいたしましたところであります。

さて、境内の紅葉の色づきは昨年同様に非常に美しく、観賞に訪れる方々に感動を与えておりました。事待池周辺ではいつもは色づきが遅い木も、今年は早々と黄色に染まっていたのは新鮮な感じがいたしました。フジテレビの朝の番組で全国放送された影響もあったのでしょうか、十一月末には休日を問わず、大勢の参拝者に観賞戴きました。また、当社ホームページには一ヶ月で約六万件のアクセスがあり、的確な情報提供の責務が更に重くなってきました。

五月中旬より着手いたしました社務所増改築工事は八月に改築部分が完工し、事務機能が移転をいたしました。現在は手水舎が移転され増築部分の地鎮祭も斎行し、明年九月末の完成を目指し順調に進捗しております。記念事業並びに募財活動には氏子・崇敬者各位の深いご理解と格別なご奉賛を賜っておりますこと重ねて厚く御礼申し上げます。十月下旬には甲子講支部世話人会にてご奉賛のご依頼を申し上げますが、引き続き関係各位の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今年もあと僅かとなり迎春準備も大詰めとなりました。師走の二十五日にすす払いを実施し、大晦日には大祓式を斎行いたします。氏子・崇敬者各位におかれましては、ご自愛の上穏やかによいお年をお迎えくださいますようお願い申し上げます。

神宮祭主池田厚子様御参拝

去る十一月八日、神宮祭主池田厚様が神宮少宮司高城治延様ご同行のもと、当社に御参拝賜りました。

当日午前九時に御宿「北の丸」をお発ちになり、同十五分に当社へ御到着。打田宮司をはじめ氏子崇敬者がお出迎え申し上げる中、参集殿にお入りになりました。

同二十二分、近藤祿宜が御先導申し上げ、渡廊手水所にて御手水を奉り、拝殿にて修祓。大麻は梅林権祿宜、塩湯は鈴木権祿宜がご奉仕申し上げました。幣殿にて御玉串を伝進申し上げ、御滞りなく御参拝なされました。引き続き御座にて豊栄舞を御覧になられました。小杉巫



一の鳥居に御着



参道を御参進



記念品の御下賜



お印「菊桜」の御手植え



次郎柿の御採果



菊花展を御覧

女・山本巫女がご奉仕申し上げました。同三十二分境内にてお印であります「菊桜」の御手植え、記念撮影、参集殿に御移動なされて記念品を御下賜なされました。御改服の後午前十時二十分、当社を御出発、次郎柿の原木地に向かわれました。

同三十五分、次郎柿園に御到着。村松藤雄森町長、友田和夫森町次郎柿原木保存会会長がお出迎え・前行申し上げ、同四十分原木地に御到着。松本春男保存会名誉顧問、竹田康治保存会相談役がお出迎え申し上げました。御説明申し上げた後、原木より御採果なされました。

記念撮影の後、午前十一時御機嫌麗しく次郎柿園より掛川市へ向かわれました。

新嘗祭の斎行・ 奉納農産物品評会の表彰

境内の紅葉が見事に色づき、見頃を迎えた十一月二十三日に新嘗祭が斎行されました。

新嘗祭とは、一年の収穫を神様に感謝申し上げるお祭りです。二月に一年の豊稔を願う斎行される祈年祭と対になるお祭りです。

本年も氏子の皆様よりご奉納いただいた四一・二点の農産物をご神前にお供えいたし、大神様に一年の豊稔をご報告し感謝申し上げます。

また、舞殿横の特設会場にて今回で五十回目を迎えた奉納農産物品評会を開催いたしました。当社振興会の主催で行われるこの品評会は毎年大勢の参拝者で賑わい、新嘗祭斎行後に行う即売会も大変好評で、本年も大盛況のうちに完売となりました。

ここに、品評会にて受賞された方々をご報告いたしますとともに、ご協力いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。



奉納農産物品評会

- 第一位 牛飼 部農会
- 第二位 上川原 部農会
- 第三位 宮代西 部農会

- 第四位 中川上 部農会
- 第五位 谷崎 部農会

- 〈小國神社賞〉
- 大根 宮代東 松尾 徳次
 - メロン 米倉 平田 一利
 - 白菜 中川上 石黒 朔郎
 - 茶 中川上 本多 利吉
 - 米 中川上 鈴木 定男
- 〈遠州中央農業協同組合代表理事賞〉
- 生薑 米倉 山下忠太郎
 - 冬瓜 米倉 山下 修一
 - 米 円田上 鈴木 伸明
 - 柿 谷中 佐野 真澄
 - レタス 中川上 石黒 寛

- 〈小國神社振興会賞〉
- 玉子 宮代西 山下 桂
 - 里芋 赤根 鈴木 正利
 - 米 橘 森松 利元
 - ゆず 谷中 朝比奈秀昭
 - 白葱 中川上 鈴木 春江
 - 大豆 宮代西 永田 利平
 - キャベツ 宮代東 松尾 徳次
 - メロン 米倉 今村 芳信
 - 焼鮎 草ヶ谷 高柳 節義
 - 馬鈴薯 中川上 伊藤 誠
 - 十点出品 米倉 山本 雄一
- 〈特別賞〉
- 〈敬称略〉



神宮へ奉納の懸税<イセヒカリ>

篤志奉納者に感謝状の贈呈

新嘗祭斎行後、拜殿にて篤志奉納者へ感謝状及び記念品の贈呈式を行いました。

本年は、長年に亘り神饌田をご提供・ご奉仕され神饌米をご奉納いただきました高木俊様を始め、毎年ご自身の田圃で収穫されたお米をご奉納された方々に贈られました。

ご奉納くださいましたお米は、神饌米として日頃の諸祭典に献供させていただきます。

ここにご芳名を記載し、改めて厚く御礼申し上げます。

- 奉耕者 高木 俊(二宮)
 - 神饌米 石橋 寛(二宮)
 - 神饌米 鈴木 孝(円田)
- (順不同・敬称略)

菊花展の開催



森町菊盛会による菊花展 (11月1日~15日)

古代の森シリーズ 18

大宝槌

大宝槌は、拜殿前西側に栄え立つ松の木の前に奉安されています。槌は、御祭神大己貴命(大国様)の神宝として人々に幸福を授けるといわれています。

昭和四十七年壬子年の二月三日、大国様の縁日にあたる初甲子の日に氏子崇敬者甲子講員により天下泰平・諸業繁栄・諸願成就の祈願をこめ福神の象徴としてご奉納されました。

今日、多くの参拝者が大宝槌をさすり、願を掛けられます。



拜殿前的大宝槌

紅葉まつりの開催

本年の紅葉は昨年より五日間程早く色つき、紅葉まつりが開催された十一月二十六日(日)には見頃となりました。舞殿では琴の奉納演奏、また本年は縁あって日本屈指の若手ギタリストとしてメジャーデビューされた高知県出身のギターデュオ「いちむじん」が来演されました。「いちむじん」の語源は高知弁で「生懸命を意味します」。午後二時より一時間のコンサートでしたが、参拝者を含め多くのファンがリズム感ある演奏に聴き入っていました。特に「五十鈴川」という曲は伊勢神宮への奉納曲とされ、まさに神韻ともい



「いちむじん」による奉納演奏

うべき澄みきった音色でした。また事待池・宮川沿では、お茶席を設けて紅葉を観ながらの野点が行われ多くの参拝者に楽しんでいただきました。門前では、ご参拝の皆様には森町茶商組合によるお茶の接待、参拝者休憩所では甘酒の接待をいたしました。宮川沿いでは、「森のカフェテラス」がパンや温かい飲み物の販売をし、また小國神社敬神婦人会によりおしるこが振る舞われ人気を集めていました。夜間は、ライトアップされた赤い太鼓橋付近が幻想的な雰囲気になりました。



紅葉の中のお茶席

社務所増改築工事地鎮祭の斎行

本年より御鎮座一四五〇年記念事業の第二期といたしまして社務所の増改築工事に着手しておりますが、十一月二十一日午前十一時より増築部分の地鎮祭を斎行いたしました。責任役員並びに工事関係者が参列のもと工事の無事完成を祈願いたしました。地鎮の神事として、忌鎌を宮司、忌鋤を設計監理者である日本建築工芸設計事務所代表取締役所長川村昭二氏、忌鎌を施工者である岡野建設株式会社代表取締役岡野良隆氏がそれぞれご奉仕いたしました。



刈初の儀

この事業は昨年の舞殿お屋根替えに続くもので、建設場所の都合により社務所増改築工事が先行され、その後参拝者休憩所及び斎館の新築となります。既に社務所の改築部分は完工されており、現在社務機能は参道西側の授与所側に移転しております。新社務所の完成は概ね、平成十九年九月末を予定しております。進捗状況は社報にてご報告いたします。

手水舎の移転



レッカー車による手水舎の移転 (10月31日)

社務所増改築工事の現況



社務所増改築工事 (基礎部分・12月14日)

まつり歳時記

十二月〜三月

十二月 師走

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 一日 甲子祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 十八日 滝宮社例祭 (午前十時)
- 十八日 初穂献納祭 (午前十二時半)
- 二十三日 天長節祭 (午前九時)
- 二十三日 鎮火祭 (午後三時)
- 二十五日 煤払祭 (午後一時)
- 三十二日 大祓式・除夜祭 (午後三時)

一月 睦月

- 一日 初祈禱祭 (午前零時)
- 一日 歳旦祭 (午前三時)
- 二日 日供始祭 (午前八時)
- 三日 元始祭・追儺祭 (午前八時)
- 三日 田遊祭 (午後一時)
- 六日 本宮山例祭 (午前十時)
- 七日 寒の丑日水汲祭 (午前二時)
- 七日 昭和天皇祭遙拝式 (午前八時)
- 七日 神明宮参拝 (午前八時半)
- 十一日 手鉾始祭 (午前九時)
- 十七日 八王子社例祭 (午前九時)
- 十七日 御弓始祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十日 どんと焼祭 (午前九時半)
- 二十六日 〓月三日 厄除大祭

二月 如月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 三日 節分祭世話人祈禱祭 (午前十一時)
- 三日 節分祭 (午後二時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十一日 紀元祭 (午前十時半)
- 十五日 霞社飯子社白山樹祭 (午前九時)
- 十五日 塩井神社例祭 (午前十時)
- 十八日 祈年祭 (午前十時)

三月 弥生

- 一日 月次祭 (午前九時)
 - 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
 - 十八日 月次祭 (午前九時)
 - 十八日 真田城趾慰霊祭 (午前十時半)
 - 十八日 鉾執社例祭 (午後一時半)
 - 二十二日 春季皇霊祭遙拝式 (午前九時)
 - 三十一日 初甲子祭 (午前九時)
- 〔例祭日程のお知らせ〕
- 四月 十四日 舞楽奉奏 (午後二時)
 - 十五日 舞楽奉奏 (午後一時)
 - 十五日 神幸祭 (午後二時)
 - 十七日 前日祭 (午前十時)
 - 十八日 例祭 (午前十時)

師走の大祓

十二月三十一日の大晦日、午後三時より師走(年越)の大祓式を斎行いたします。大祓とは、日常生活の中で無意識のうちに、心や体についた罪やけがれ、災厄や不浄なものを身代わりとなる人形(形代)に移し、清らかな姿に立ち返るようお願い、川に流して祓い清める神事のことをいいます。

この神事は、年に二回(六月と十二月の晦日)行われており、特に六月の大祓式では茅輪神事が執り行われます。この大祓式には、どなたでもご参列いただけますので、是非ともご家族お揃いでお申し込みの上、ご参列いただきますようご案内申し上げます。

尚、大祓の人形は一ヶ月前より、ご祈禱をお受けいただきました方々に、または社頭にてお頒け致しております。ご希望の方は当社までお問い合わせ下さい。皆様と一緒に祓いをして、清々しく新たな気持ちで新年を迎えましょう。

小國神社社務所 大祓係

TEL 〇五三・八八九・七三〇二
FAX 〇五三・八八九・七三六七



師走の大祓式

敬神婦人会の活動

十一月二十六日の紅葉まつりに合わせ、宮川沿いの特設テントにて、当社敬神婦人会(小池まさ子会長)の役員の方々が、ご参拝の皆様におしるこの提供をいたしました。

前日に、役員有志が小豆を煮て、当日お餅を切り準備をし、十時頃よりおしるこを振る舞いました。天候にも恵まれご参拝や紅葉観賞の方々に賑わい、用意した一〇〇〇杯分のおしるこは瞬く間になくなりました。本年は三回目の実施となりますが、この日のために小豆を栽培して下さいました会員の皆様に厚く御礼申し上げます。また、ご奉仕下さいました役員の皆様、本当にお疲れさまでした。



敬神婦人会による参拝者への接遇

新春祈禱のご案内

来る平成十九年の新春祈禱を例年通りご奉仕いたします。

当日の受付は混雑が予想されるため、当社では年内の予約受付をいたしてまいりますのでご利用下さい。

尚、個人のご祈禱は当日受付にて毎日ご奉仕いたしております。

ご家族、皆様お揃いでご参拝くださいますようお願い申し上げます。



正月の社頭（第二鳥居付近）

- 一、予約対象 会社及び個人事業者
- 一、申込方法 電話またはFAX等にて申し受けます。
- 一、ご相談、ご不明の点がありましたら、左記までお問い合わせください。

小國神社 新春祈禱予約係

TEL 〇五三八八八九一七三〇
FAX 〇五三八八八九一七三六七



夜間の授与所前

厄除大祭のご案内

人生の節目に当たる厄年は、健康、仕事、私生活などあらゆる面で難にたいやすい年頃といわれ、無事を願う気持ちは今も昔も変わりません。

小國神社では一月二十日より二月三日まで厄除大祭を執り行います。平成十九年の厄年に当たる方は、「厄除」のご祈禱をお受けになり、健やかな日々の生活をお過ごし下さい。

尚、二月三日は混雑いたしますのでお早めにお越しくださいますようお願い申し上げます。

○祈禱料 五、〇〇〇円より

○厄除大祭神札及び御守を授与いたします。

○祈禱受付 午前九時～午後四時

一平成19年 厄年表一

男	前 厄	本 厄	後 厄
	昭和23年 60才	昭和22年 61才	昭和21年 62才
性	昭和42年 41才	昭和41年 42才	昭和40年 43才
	昭和59年 24才	昭和58年 25才	昭和57年 26才
女	前 厄	本 厄	後 厄
	昭和47年 36才	昭和46年 37才	昭和45年 38才
性	昭和51年 32才	昭和50年 33才	昭和49年 34才
	平成2年 18才	昭和64年 平成元 19才	昭和63年 20才



浜松ドイツ文化交流会のご参拝（10月12日）

「小國の杜・点描」



神宮お木曳ぎへ参加 (5月26日)



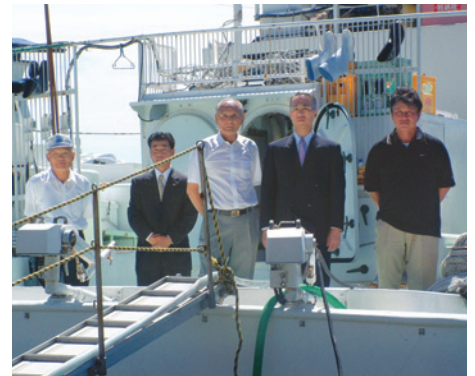
夏越の大祓 (6月30日)



歌舞伎役者・中村獅童氏ご参拝 (9月5日)



神徳丸 (崇敬奉賛会理事・小栗啓氏所有)



打田宮司・船霊へ参拝 (真中 小栗啓氏)

編集後記



ホトトギスの開花

○「玉垂」十八号をお届けいたします。神宮祭主様ご参拝のご報告をさせて頂き戴きました。御手植の「菊桜」を大切に成育してまいります。

○十一月二十三日の奉納農産物の即売会は、一時間程にて完売いたしました。毎年お越しになっておられる方が大勢いらつしやいます。ご協力に御礼申し上げます。

○秋の写真コンテストも五回目を迎えました。三月初旬に森町文化会館ギャラリーにて展示をいたします。是非ご来場ください。

表紙写真について

平成十八年十一月二十六日(日)午前十時に宮川沿の紅葉を撮影いたしました。宮川沿には紅葉観賞に最適な遊歩道があり、ひと廻り二十分程かかります。家族揃って落葉を拾っている姿も見うけられ、皆様方にお楽しみ戴いております。

平成十八年十二月二十日
「玉垂」(たまだれ)第十八号
題字揮毫 神社本廳前総長 工藤 伊豆
発行 小國神社社務所
郵便番号 四三七一〇二二六
住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一
電話番号 〇五三八(八九) 七三〇二
FAX 〇五三八(八九) 七三六七
印刷 (株)デザインオフィス エム・エス・シー